

社会は変化している。では生徒たちはどうか？

卒業生の「その後」を独自調査 進路選択のリアル

変化の渦中で、生徒たちの進路選択の実態や意識も変わっているのでしょうか？

2025年以降に高校を卒業した人を対象に調査を行いました(2026年8月実施)。その結果をレポートします。

取材・文／塚田智恵美 イラスト／加納徳博

Question

？

社会や労働市場の変化は、
一人ひとりの進路選択に影響する？

Result

！

直接影響する層は限定的
だが変化に関心がないわけではない

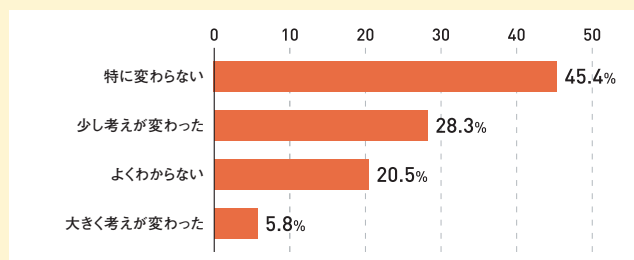
情報提供が生徒の背中を押す支援
となることも考えられる。

社会の変化は、それぞれの選択に
どれほど影響を与えるのか。人口
構造の変化によって、今後エッセン
シャル領域の仕事の需要が高まるとい
った予想や、今、給料が上がっている
職業の傾向(10〜11ページ)を示し
たうえで「その情報を見て進路の
考え方は変わったか」を聞いたところ
「特に変わらない」が約半数を占めた
(図1)。情報を知ることの影響は、
一見すると限定的に見える。

しかし、これを「労働市場の変化
に対して無関心」と片付けるのは早
計のようだ。「既にこれらの情報を
知っていた」人が一定数おり、そのう
えで自分の希望を優先したい人、ま
た進路自体は変えないもののAI
時代に備えたスキルを磨きたい、と
答える人など、情報に振り回される
のではなく、自分なりの目的意識を
もって冷静に変化を受け止めている
様子が見られる。一方で、情報提示
により進路意識が変化した層は、今
後身につけたい力として「コミュニ
ケーション能力」や「AI活用スキル」
を意識している。

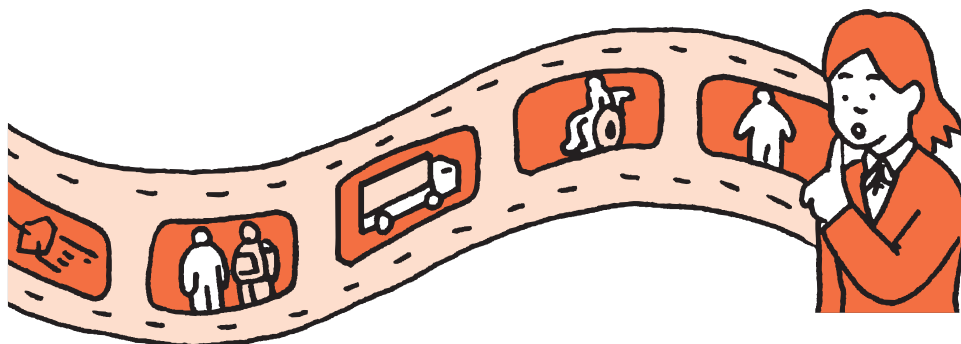
また、進路決定の時期が遅い生徒
ほど、市場変化の情報に反応してい
る傾向も見えた。やりたいことがな
かなか見つからない生徒に対して、

図1 情報を見て進路の考え方は変わったか(単一回答)



● 労働市場の変化に関する情報を
見て、進路の考え方が「特に変わら
ない」層が45.4%。
● 変化なし層の16%は、志望が強く
または既知の情報だったと回答。
● 変化あり層は「コミュニケーション能力」や「AI
活用スキル」などを意識。

調査サマリー



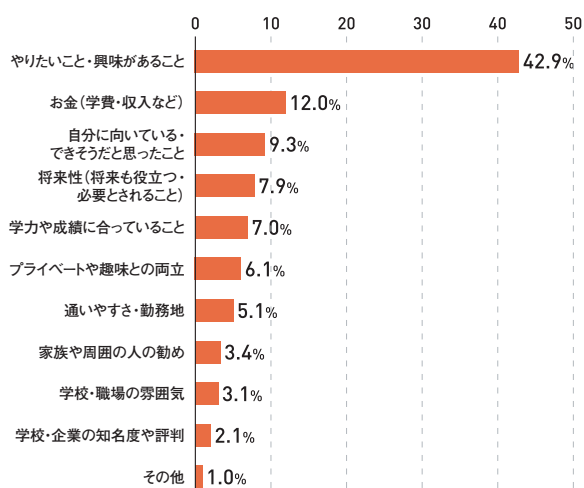
冷静に、
世の中の変化を
捉えている？

Question

?

実際のところ、進路選択で何を大事にしているのか？

図2 進路選択時に最も重視した項目(単一回答)



Result

!

進路は「やりたいこと」で選ぶ。でも、働く目的は「お金のため」？

進路選択で重視したことを聞くと、最も多かったのは「やりたいこと・興味」という回答だった(図2)。一方、働くことへのイメージ(自由記述)は「お金を稼ぐ・自立の手段」が多く、「やりがい」や「成長」といった前向きな労働観を抱く生徒は、ごく一部にとどまった。労働を「つらい」「義務」と否定的に捉える声もある。進路を選ぶ段階ではみずからの関心や理想を追い求めつつも、実際

の労働に対しては生活の手段として極めて現実的に捉えており、理想と実質的な労働観が分離しているのかもしれない。

調査サマリー

- 進路選択で重視するのは「やりたいこと・興味」が最多の42.9%。
- 労働観(自由記述)は「お金を稼ぐ手段」が多く、前向きな労働観(やりがい・成長)はごく一部。

やりたいことを大事にしたいけど「お金」にはシビア？



Result

!

「所属」よりも「収入」に安定を感じる

人生で重視する価値観を聞くと、「安定」は「好き・やりがい」に次いで多かった。安定した進路・仕事のイメージを聞くと、「収入が安定していること」が最多。一方、「大手企業」や「公務員」といった所属に関する回答も続き、「好きな仕事を長く続けられること」を挙げる人も。安定は、所属だけでなく働き続けられる環

境も含めて捉えられているようだ。

調査サマリー

- 重視する人生観は「安定」が23・8%。「好き・やりがい」の29・7%に次ぐ。
- 安定の具体像は「収入の安定」が46・6%。「大手企業」23・9%、「公務員」22・6%。

Result

!

職業観はまだ固まっていない

高校卒業の段階で、将来の職業観やキャリア観が固まっている生徒はまだ少数派のようだ。就職について聞くと「1社に長く勤める」ことを望む声が多いが就職への具体的なイメージや、希望職種は決まっていない層が多い。進学はしたものの、その先の働く姿まではまだ主体的に描ききれていない人たちが、一定数いることがうかがえる。高校卒業時の進路決定は、あくまでスタートラインということだろうか。

調査サマリー

- 希望職種「未定」は41・9%。
- 就職観は「1社で長く」が最多の37・4%。一方で「考えたことがない」も26%に達する。

進路選択における意思決定のプロセスと、その納得度は？

じっくり
話した時間が
「納得」をつくる？



Result

!

進路選択で影響を受けた人は先生やネットよりも「母」

進路について「特に影響を受けた人はいない」と答えた人は35・6%。一方、64・4%は、進路選択に影響を与えた相手を挙げている。その相手は「母」が19・9%で最も多く、次いで「高校の先生」と「SNSやネット」が約10%で続いた(図3)。家族や先生、デジタル情報など、身近な存在の影響も無視できないようだ。

調査サマリー

●「特に影響を受けた人はいない」は35・6%。一方、64・4%は、進路選択に影響を与えた相手を挙げた。
●影響源は「母」が19・9%で最多。次いで「高校の先生」「SNSやネット」が約10%で続いた。

Result

!

約3人に1人が 進路に納得しきれていない

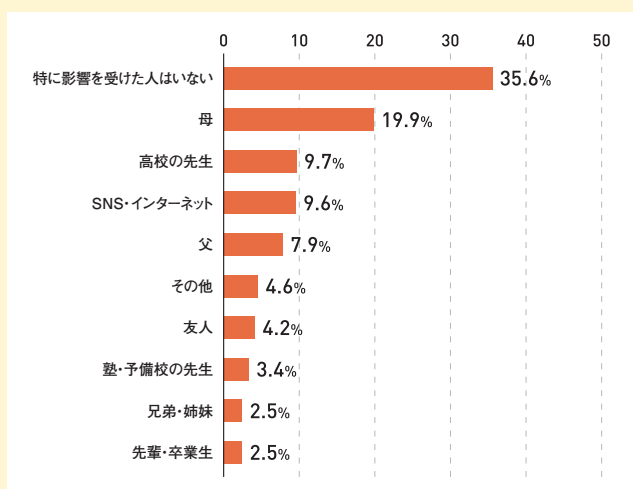
進路決定について納得している層が7割弱を占め、一定の満足感を示す声が多数派になっている。しかし、3割強の人たちは納得しきれていない様子。その理由として「第一志望に不合格だった」「学びたい内容と異なる」といった声が多く、第一志望の可否と納得度が連動している。

希望通りの進路を逃した生徒が、次のステージでいかに前向きに気持ちを切り替えられるかが、納得度を再構築する鍵になりそうだ。

調査サマリー

●今の進路に納得している層は計66・8%、「どちらとも言えない」が20・0%、納得していない層は13・2%。

図3 進路選択に最も影響した人・情報(単一回答)



Result

!

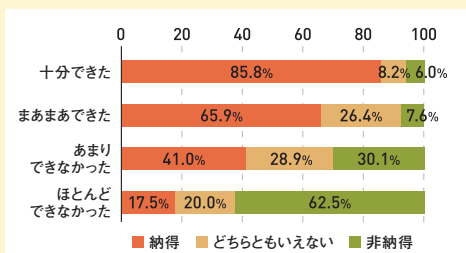
先生と「十分に話し合えた」層は「納得度」が高い

決まった進路への納得感について、高校の先生との対話の役割が極めて大きいことが、調査結果に表れている(図4)。先生と十分な話し合いができたと感じる生徒ほど、決まった進路への納得度が高く、対話がほとんどできなかった生徒は、決定後に割り切れない想いを残しやすくなっている。進路決定について先生の直接的な影響力はさほど高くなかったが、進路を選ぶ決め手というより「相談できた安心感」が、結果的な納得度を左右している可能性がある。

調査サマリー

●先生と「十分に話し合えた」層は納得度が85・8%、「ほとんどできなかった」層の納得度は17・5%。

図4 先生との話し合いの程度別
進路への納得度



Question

?

進路選択の「リアルな声」を聞く

大学1年生
Aさんの声



AIで仕事が変わることも織り込み済みで
「私生活を楽しめる安定」を重視し、大企業志向

情報系の学部に進んだAさん。もともと海外に関心があり、言語や国際系の分野に進みたいと考えていた。具体的に狙っていた指定校推薦枠があったが、自分の代でその推薦枠がなくなってしまう。先生と話し合い、家からの近さや大学名といった現実的な条件を優先して、同大学の指定校推薦が残っていた情報系学部へ舵を切った。プログラマーとして働く姉の背中を見ていたため、情報系への抵抗はなかったそうだ。

Aさんは将来「安定した仕事」に就きたいと考えている。Aさんの思う安定とは、複数の事業を手がけていて倒産リスクの低い大手企業に所属することだ。「働く一番の目的は、大好きな海外旅行を楽しむためにお金を稼ぐことです。情報管理やプログラミングといった仕事の多くは、今後AIに代替されるかもしれない。でも『チェックする役割』としての人間の仕事は、残ると思う。正直、今バイトしていても『働くのはしんどそう』と感じる(笑)。だからAIとも賢く共存し、私生活を楽しむ手段として仕事と付き合っていきたいです」(Aさん)。

専門学校1年生
Mさんの声



物価高で高まった「安定」への意識。
同時に「自分だからできる」仕事に就きたい

看護専門学校に進んだMさん。自身の通院時にお世話になった看護師に影響を受けて、中学生の頃から看護師を志した。最初は純粋な憧れだったが、高校生になり「手に職をつけ、安定した職業に就くこと」の重要性を意識し始める。日常で物価高を実感することが増えたのも、その理由の一つだ。もともと子どもが好きなので、保育士という選択肢も考えた。しかし「仕事の対価にふさわしい給料がもらえるか」が気になり、知り合いを通じて現実的な条件面を調べた結果、最終的には夜勤手当のある看護師を選んだ。進路決定にあたり、高校の先生は具体的な学校選びを手伝い、費用面でも助言をくれた。

「卒業後自立してやっていけるか、心配もある。でも、お金がすべてではない。実習で患者さんから『あなたに担当してもらってよかった』と言われた経験が大きく、人と深く関わり『自分だからできる』仕事をしたいと思うようになりました。ロボットやAIがどんどん進化するからこそ、私はコミュニケーション力や臨機応変な対応力を高めていきたいです」(Mさん)。

変化を受け止めた、それぞれの「安定」のかたち

物

価高や高齢化、労働市場の流動化といった社会の変化は、進路選択の意識にも確かに影響を与えているようです。今回、高校を巣立ち、一步社会に近づいた卒業生たちを対象に調査を行いました。その結果として理想の追求だけでなく、現実的な生活設計を重視する声が目立ちました。この結果は、巷でよく聞く「現代の高校生は安定志向である」とまとめることもできるように思えます。しかし、よく話を聞いてみると、彼女らの言う「安定」の定義は、実に多種多様です。

です。

今回誌面で紹介した2名の声も、対照的でした。Aに代替されない「人間だからできる価値」を対人対話に見出し、手に職をつけて働くことを安定と捉える、Mさん。一方、労働を「私生活でやりたいことをやるための手段」と位置づけて、倒産リスクの低い企業を志望する、Aさん。アプローチは異なりますが、自身の大切にしたい価値観を認識したうえで、その幸せを最大化するためのインフラとして「安定」を捉えている点は共通します。また、2名とも高齢化やAI台頭といった変化を多少なりとも意識しており、かつ、それを「脅威」と捉えていない点も印象的でした。変化の時代を、生徒たちは自分なりの軸で歩もうとしているのかもしれません。